

LOBO 調査

早期景気観測

3月分 日商調査日 3月8日～22日
当所調査日 3月8日～22日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

3月の全産業DI ▲14・8
(前月比+4・6ポイント)

サービス業では、マスク着用ルール緩和による消費者意識の変化で、客足が回復した飲食・宿泊業を中心に改善した。小売業では、インバウンド需要の増加により売上が堅調な百貨店を中心に改善した。建設業でも、需要が増加する住宅関連の民間工事に下支えされ、改善した。

一方、製造業では、電子部品関連の外需減退で横ばいに留まり、卸売業では、製造業関連の引き合い減少に加え、保管料などのコスト増も重なり、悪化となった。原材料・エネルギー価格の高騰などによるコスト増や人手不足、度重なる仕入価格の上昇に価格転嫁が十分に行えていないなど、経営課題は山積するも、経済活動は回復が進み、中小企業の業況は改善した。

中小企業の景況感

先行き見通しDIは▲16・3（3月比▲1・5ポイント）

経済活動の回復への期待感は何える一方、業種を問わず原材料・エネルギー価格の高騰、人材確保に向けた賃上げなどによるさらなるコスト増が懸念される。また、海外経済の鈍化や人手不足による受注機会の損失で売上悪化も危惧される。

政府の激変緩和措置はあるものの、度重なるコスト増に対する価格転嫁も十分に行えておらず、企業収益の圧迫が続いており、先行きは厳しい見方となっている。

関東ブロックの業況についてのコメント

コロナ禍も落ち着きを見せ、イベントなどへの客足も回復している。季節的に人の移動が旺盛になるため、需要の取り込みに努める（日用品小売業）。仕入価格の上昇分についてサービス価格への転嫁を実施。今後の収益改善に向けて、事務作業の効率化による生産性向上を図っていく（写真業）。

基調調査

「人流回復の兆し、コスト上昇は依然続く」

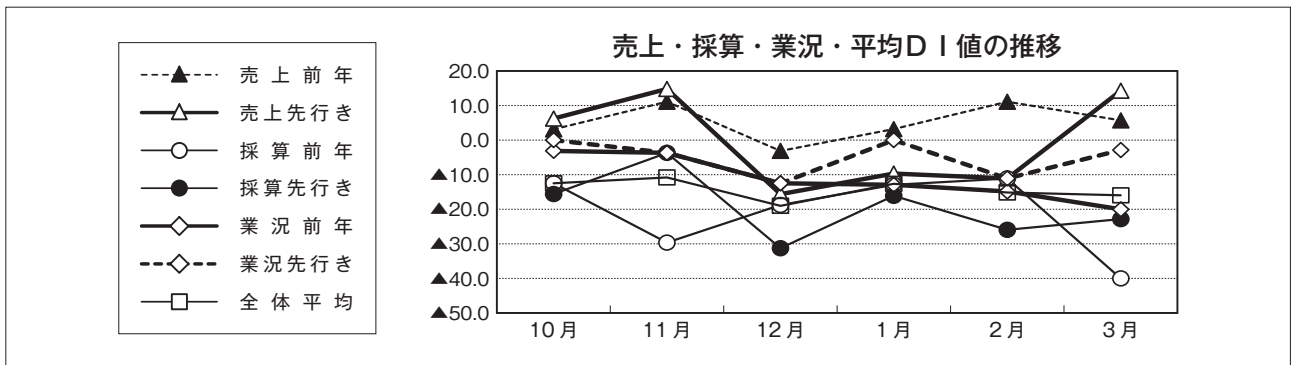
全体平均DIは▲16・0で前月に比べ▲0・9ポイントの悪化。項目別では、売上先行き25・4ポイントの改善、採算前年▲28・9ポイントの悪化が見られた。コメントには「観梅時期により人出が増えている」（菓子小売業）や「業績見通しは悪くないが燃料費高騰の影響で経費が増加し、利益が見込めない」（家具・小売業）など、人流回復による売上先行きの改善などが見られるものの、原材料や燃料の高騰による採算への悪影響が見られた。

水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移)

(全産業)

(サンプル数40社)

項目	令和4年		令和4年			令和5年		
	3月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
売上前年	▲14.3	3.1	11.1	▲3.1	3.2	11.1	5.7	
売上先行き	▲20.0	6.3	14.8	▲15.6	▲9.7	▲11.1	14.3	
採算前年	▲25.7	▲12.5	▲29.6	▲18.8	▲12.9	▲11.1	▲40.0	
採算先行き	▲22.9	▲15.6	▲3.7	▲31.3	▲16.1	▲25.9	▲22.9	
仕入前年	▲68.6	▲71.9	▲77.8	▲75.0	▲74.2	▲66.7	▲80.0	
仕入先行き	▲60.0	▲62.5	▲70.4	▲65.6	▲64.5	▲63.0	▲68.6	
社員前年	17.1	18.8	33.3	18.8	16.1	18.5	31.4	
社員先行き	20.0	9.4	25.9	15.6	22.6	18.5	25.7	
業況前年	▲11.4	▲3.1	▲3.7	▲12.5	▲12.9	▲14.8	▲20.0	
業況先行き	▲22.9	0.0	▲3.7	▲12.5	0.0	▲11.1	▲2.9	
資金前年	▲11.4	▲15.6	▲11.1	▲12.5	▲3.2	▲14.8	▲22.9	
資金先行き	▲11.4	▲6.3	▲14.8	▲15.6	0.0	▲11.1	▲11.4	
全体平均	▲19.3	▲12.5	▲10.8	▲19.0	▲12.6	▲15.1	▲16.0	



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味するもの。